

# まちの話題

## 山田風太郎さんの業績をしのび「風々忌」を開催

7月28日、養父市出身の作家山田風太郎さんの命日に合わせた「風々忌」が、関宮の山田風太郎記念館前で行われました。この風々忌は、同記念館を運営する「山田風太郎の会」が平成16年から毎年開いており、今年も風太郎さんを知る地元住民ら約30人が集まりました。

この日は、記念館前に植えられているナツメの木の前に遺影が置かれ、集まった人たちが献花を行い、続いて風太郎さんの日記の一説が朗読されたほか、風太郎研究家の有本眞子さん（養父市

中瀬）が詞を担当した「風の唄」を地元のコーラスグループが披露するなどして、ふるささが生んだ偉大な作家の業績をしのびました。

## 但馬の夏をつげる「ようか夏まつり」開催

7月17日、18日の2日間にわたり、八鹿夏まつりが市役所駐車場などを会場に開催されました。

18日の午前からは、八鹿の街中をみこしやだんじりが練り歩き、夏祭りが本格的にスタート。その後、恒例の八鹿踊り、造り物スタンプリーや兵庫県警音楽隊のドリル演奏、よさこい踊りなどが行われ、一気に祭りの雰囲気盛り上げました。

街中に露店が並ぶと、多くの家族連れや子ども達が行き交い、午後8時からはメインイベントの花火大会がスタート。今年の花火大会では、例年の還暦花火に加え、出産や結婚、子ども入学など祝い事を記念した花火を含めた計1700発が打ち上げられました。

また、100年以上続いている造り物大会では、栄町区の「遣唐使船」がタイヤ賞に輝きました。



祭りの雰囲気を盛り上げた八鹿踊り



遺影にトルコキキョウの花を献花する参加者

## 地上デジタル放送を受信するための簡易なチューナーの無償給付等の支援について

総務省では、経済的な理由等で地上デジタル放送に移行することが難しい世帯に対し、簡易なチューナー（1台）の無償給付等の支援を実施しています。

### ①支援の対象

対象は、生活保護世帯や、非課税世帯などNHK放送受信料が全額免除となっている世帯です。

### ②支援の内容

地上デジタル放送を受信するための「簡易なチューナー（1台）」の無償給付を行います。必要に応じたアンテナ改修等、共同受信施設やケーブルテレビの改修経費の支援を行います。

### ③支援の申し込み期間

平成22年4月19日～平成22年12月28日（当日消印有効）

天候不順などの理由で支援が遅れることがあります。支援を希望される方は受付期限にかかわらずお早めに申し込みください。平成23年度の支援については現在未定です。

お問い合わせ先：総務省地上デジチューナー支援実施センター（☎0570-033840）

平日午前9時～午後9時、土日祝日午前9時～午後6時

## 旧八鹿町民の暮らし生き生きと 貴重な60年代のフィルムを発見

1960年代の旧八鹿町の様子を撮影した8ミリフィルムが見つかりました。

このフィルムは旧八鹿町が「町のあゆみ」として制作したもので、当時の生活をうかがい知ることのできる貴重な資料です。今回、劣化の激しい一部を除いて動画をデジタル化しました。

映像は、昭和35年から昭和40年に撮影した4本で、詳しい記録は残っていませんが、公民館などで上映していたようです。

フィルムは空撮映像から始まり、現在の市役所の場所にあった旧八鹿中学校で開かれた町民運動会や消防団の出初め式、県警音楽隊の演奏会、上下水道施設工事の様子などが収められています。

円山川の映像では、寄せ網の中で大量のアユがはねるシーンなど、今では見られないほどの大漁の様子を記録している一方、毎年秋の九鹿のざんざか踊りは振り付けや衣装などが今と変わらず、伝統行事が伝わっているのが分かります。さらに、昭和36年の第2室戸台風で、八木川の土手が削られて市街地が浸水している状況なども撮影されています。

フィルムは、退色なども目立ちますが、映像のほとんどをカラーで見ることができます。

今後、市ではケーブルテレビでの放映や文化祭などでの上映を通して公開していく予定です。



第2室戸台風で増水した八木川と屋岡橋



旧青溪中学校で行われた消防団出初式



寄せ網の中の大漁のアユ

## 拝啓 市民の皆様

残暑お見舞い申し上げます。体調管理に十分気を付けていただきたいと思えます。

さて、地球温暖化による気候変動の影響でどうか、局地的集中豪雨が日本の各地を襲い、洪水や土砂災害により尊い人命が奪われています。本市でもこの四月から七月までの間に8回もの水防指令を発令し、警戒体制を取っていますが、例年に比べてずいぶん増加しています。その分、水害の危険度が高くなってきたというわけですので、一層注意が必要です。

昨年夏の佐用町の大災害を教訓として、避難情報を出すタイミングや伝達方法、避難誘導のあり方が見直されています。その一方で住民には、避難する場合どのようにして自分の命を守るか、助かる確率をいかに高めるかということが問われています。災害時の救助を全て行政が行う（公助と言います）には限界があります。自分を救うため（自助と言います）の判断力を養うことが大切です。

このため本市では、益明けからケーブルテレビのふれあいネットで「防災情報コーナー」を放映することになりました。防災の専門家である気象庁の防災気象官に出演していただき、洪水時の避難の方法などを分かりやすく知らせることとしております。是非放送を見ていただき、災害時における身の守り方の知識を身につけてください。台風シーズンを迎え、災害に強い安全で安心なまちづくりを市民の皆さんと一緒にまいります。

市長 広瀬 栄